

|   |  |    |   |
|---|--|----|---|
| 分担金・拠出金の名称  | UNEP国際環境技術センター(IETC)拠出金  | 評価 | A |
| 拠出先の国際機関名   | UNEP国際環境技術センター(IETC)   |    |   |
| 国際機関の概要   | UNEP国際環境技術センター(IETC)は、国連環境計画(UNEP)の内部機関であり、平成2年(1990年)ヒューストン・サミットにおいて我が国が強力に誘致を行った結果、日本とUNEP間のIETC設立に関する協定に基づき、平成4年(1992年)に設置された機関である(所在地:大阪)。IETCは、主に廃棄物管理の分野で、途上国等に対して環境上適正な技術を移転するための事業を実施している。   |    |   |
| 拠出により我が国が期待する成果目標及び活動指標   | 達成状況   |    |   |
| <p>1. (1) 成果目標:IETCへの拠出を通じて、我が国の重要外交施策の遂行を促進し、我が国実施事業との相互補完性を高める</p> <p>活動指標:IETCの活動を通じた我が国重要外交施策への貢献、我が国地方自治体や関係機関との連携</p> | <p>IETCは、主に廃棄物管理の分野を中心に、途上国等に対して環境上適正な技術を移転するための事業を実施。その活動を通じ、環境問題に関する我が国の経験と技術を効果的に途上国等と共有。</p> <p>2014年2月には、我が国の産業廃棄物政策をまとめた報告書を発表。また、12月に開催したバイオマス廃棄物のエネルギー利用に関する国際ワークショップには、アジア、アフリカ、中南米の計25か国の関係者が参加し、我が国企業の技術を活用したパイロット・プロジェクトの結果共有等が行われた。</p> <p>また、2014年12月、IETCの活動を支援するため、公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)をコラボレーティング・センターと位置づけ、連携を強化している。</p> |    |   |
| <p>(2) 成果目標:IETCの意思決定における我が国の発言力・影響力を確保する</p> <p>活動指標:日UNEP政策対話、IETC所長との定期的な意見交換</p>  | <p>我が国は、国連環境総会(UNEA)、常駐代表委員会等、UNEP全体の活動に積極的に関与している。また、2013年から毎年1回開催されている日UNEP政策対話等、ハイレベルな意見交換の場でIETCについて取り上げ、我が国の影響力を確保している。さらに、IETC所長と定期的に意見交換を行い(四半期に1回程度)、我が国意見をIETCの事業に反映させている。</p>  |    |   |
| <p>(3) 成果目標:効率的な組織・財政マネジメントの実現</p> <p>活動指標:具体的な組織運営改善措置の導入</p>  | <p>IETCは、UNEPの内部機関として、2014年の国際公会計基準(IPSAS)導入、及び2015年の新行財政管理システム(Umoja)導入等の措置により、効率的で透明性の高い財政管理を図っている。</p> <p>また、IETCは組織改革に積極的に取り組むと共に、域内の関係機関等とのパートナーシップを強化し、財政面での支援や幅広い知見の獲得に取り組んでいる。</p>   |    |   |
| <p>(4) 成果目標:IETCにおける邦人職員増強を図る</p> <p>活動指標:邦人職員の増強</p>   | <p>IETCの専門職以上に占める邦人職員の割合は前年比20%増。</p> <p>2014年5月:0%(邦人職員0名/専門職以上全体人数5名)</p> <p>2015年5月:20%(邦人職員1名(P3)/専門職以上全体人数5名)</p>   |    |   |
| <p>2. PDCAサイクルの確保</p>   | <p>①計画段階(Plan):我が国の関連政策(「経済財政運営と改革の基本方針2014」について)等に照らしつつ、予算要求。②実施段階(Do):予算拠出。国連環境総会(UNEA)、常駐代表委員会、日UNEP政策対話、IETC所長との定期的な協議等を通じて、IETCの活動をモニタリング。③評価段階(Check):UNEP事業成果報告書やIETC国際諮問委員会(IAB)により成果を評価。④フォローアップ(Act):日UNEP政策対話、IETC所長との定期的な協議等の機会を通じ、必要に応じて改善を提言。</p>  |    |   |
| 担当課・室名  | 国際協力局 地球環境課  |    |   |